

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： あお空グループホーム 釜石

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム 釜石		
所在地	〒026-0302 岩手県釜石市片岸町第2地割13-28		
自己評価作成日	令和1年8月30日	評価結果市町村受理日	令和元年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

指示される前に自分から気づいて行動する姿勢を評価し、ミスを責めることなく自主性を成長させていく方針で行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0391100047-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高速道や主要道路に隣接し、森林に囲まれ自然環境に恵まれた高台の住宅地に立地している。小規模多機能ホームや高齢者住宅が併設され、日常生活や各種行事の共同開催など、連携を図りながら効果的な運営を行っている。グループホームの理念を職員間で共有し、利用者の意向に沿いながら、運営推進会議の意見や職員の提案を業務に反映させ、より充実した介護サービスを提供している。地域のボランティアの受け入れ、保育園との交流、住民参加の花を企画・実施し、また、行政、学校、福祉施設、警察などが参加する地域の会議に出席するほか、地域の防災訓練へ参加するなど、地域との交流、連携に力を入れている。更に、医師の指示や看護師の助言のもと、利用者や家族の意向に応じて他施設への住み替え、終末期のターミナルケアの実施、施設内での看取りを行うなど、家族等に安心を提供し信頼を得ている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年9月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和元年度

事業所名： あお空グループホーム 釜石

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部の方の評価を得ながら、理念の実践を継続している。	職員アンケートを行って定めた理念「笑顔で楽しく」を施設内に掲示するほか、職員研修の中でも周知している。朝と夕方の業務引継ぎの際に、職員間で理念を共有し、日々の生活の中で利用者に寄り添い、きめ細かなサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを行事や福祉相談を通じて深めている。	東日本大災害(津波と地震)に遭った際、地域住民が、事業所に避難をしてきたこともあり、その後は、地域の会合を事業所で行うようになり、地域との交流が深まっている。地域主催の会議や防災訓練等には職員が積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や居宅介護支援事業所などと協力しながら進めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で運営課題など報告し協力を得ながら取り組んでいる。	運営推進会議の委員から、地域情報の提供、事業所の取り組みへの意見を頂いているほか、花見への老人クラブ参加の提案など、業務に反映させていけるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期の会議に参加し情報交換、課題の取り組みなど協力関係を積み上げている。	地域包括支援センターの職員から、各種情報や指導を得ているほか、行政主催の地域連携会議や福祉関係者のケア会議に出席している。また、市担当課に設置のボックスから各種資料を入手しているほか、防災端末による情報、連絡事項などを得ている。要介護認定申請に関する指導も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針で日々取り組んでいる	職員による委員会を3か月に1回開催し、ヒヤリハット・事故委員会と併せ、身体拘束についての協議を通じ職員に趣旨を周知している。また、本社のDVDを活用し、職員の研修を行い、身体拘束防止の徹底を図っている。スピーチロックについては、職員間で注意し合っている。転倒予防のセンサーの活用もなく、玄関の施錠も夜間のみで、身体拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の中で学習する機会を設けて実施している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに成年後見や権利擁護を活用している利用者もあり、担当以外の職員にも知識として必要に応じて学ぶ機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度やサービスの理解に相応の時間がかかる場合が多く何度も説明をしながら理解を得られるよう進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から直接、意見要望があれば対応したり、運営推進会議を通じて行う場合もある。	利用者へのアンケートを実施したが、回答が少なく活用出来なかった。遠方に住む家族の方とは、機関紙を郵送しながら、電話等で職員がやり取りしている。来所された家族とは、その時に聴き取りをしている。今まで家族から苦情を寄せられたことはない。利用者ごとに居室担当を決め、日々の生活の中で寄り添い、気持ちを把握するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を通じて役員に意見具申、要望等を伝えている	毎日、朝夕にミーティングや申し送りにより、職員の提案を受け入れ、敬老会での食事、ドライブの行き先、加湿器の設置などを具体化している。また、職員からの申し出に沿って、勤務体制の変更や資格取得への支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境づくりに配慮しながら進めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の資質、能力向上に取り組む状況に関してはやや後退している感があり、人材の確保にも苦慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療、福祉、行政等の機関と連携は欠かす事のできないものと捉え積極的に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	急激な環境の変化に本人も家族も追いつめられて相談に来る場合も多く、最初からサービスありきではなく実態を十分に捉えるための相談をしながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安と期待の中で相談されることが多くケースによっては時間をかけて支援をする場合もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の果たせる機能を説明し相手の理解度を考察しながらサービスにつながるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体介護のみならず生活支援も同様に重要と捉えて楽しみ、生きがい、安心感を得られるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々のケースに合わせて家族へ協力の必要性を話して共同支援の在り方も視野に入れて支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方と従前の付き合いが継続できるよう柔軟に対応し、支援継続中	甥や姪等、家族の面会が継続できるように支援している。漁業をしている家族から、ワカメ等の差し入れがある。出前理容を利用している利用者もいて、理容師と馴染み関係となっている。馴染みの地元の商店に買い物に出かけ、入居前からの地域との繋がりを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	併設運営の利点を生かし交流の機会を得ている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過について家族や関係機関に問い合わせたり面談もしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向と家族の意向にギャップが多くその調整に苦慮しながら対応している。	帰宅願望者の家族との調整のほか、居室担当職員が日々の生活を通して利用者に寄り添い、希望や意向の把握に努めている。利用者の希望等に沿って、モップがけ、テーブル拭き、洗濯干したたみ、庭の草取り、プランターへの水遣りなどのお手伝いを日々の生活に生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活から施設入所への環境変化は本人にとって大きな負担になるケースが多くニーズ充足は十分とは言えない状況にあるが、改善の努力は常に心がけている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族状況を(支援能力)みながら協力を得るなかで個人の生活支援を実施中			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに力を入れ実施している。家族との意見交換が難しく課題となっている。	短期6か月、長期1年毎に計画の見直しを行っている。居室担当とケアマネによる3か月ごとのモニタリングと、居室担当、看護師、ケアマネ、主任によるカンファレンスを経て介護計画の案を作成し、家族の意向を聴き取り、ケアマネが介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態を記録と報告を主に職員間の連携支援を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅から生活環境の変化に戸惑う入所の方が多く家族の協力も欠かせない実情でありその対応は柔軟性が不可欠と捉えて支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉機関、民生委員、行政機関等の方々と地域の課題を協議するための会議に出席している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべてが希望通りに実施できているわけではないが、本人家族と調整をしながら行っている。	3名が入居前のかかりつけ医を受診し、通院者のうち家族の付き添いは2名で、他は家族の要請により職員である看護師が同行している。訪問診療は3名が受診している。看護師が、通院の手配や治療計画等を担当し、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人及び家族を含めた医療支援を計画的に実施管理しているところです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携の必要性は必要不可欠であり近年は益々、連携を図る機会が多くなり改善が図られている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアをすでに何例も経験し職員も在宅診療との連携の在り方を学びながら今後もニーズに対応できるようにしている。	重度化や終末期の対応指針について入居時に家族に説明し、ターミナルケアの際に改めて家族の意向を把握している。家族の意向に応じ、他の施設への住み替えや施設内での看取りを行っている。訪問診療の医師の協力のもと、医師、看護師、職員、家族等の関係者がチームとして看取りニーズに対応できるよう取り組んでいる。看取り後の職員へのケアも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応能力は、経験を積み重ねて行くことで落ち着き迅速に判断できるようになっている。経験の浅い職員のスキルアップの必要性は感じているので知識と経験を積む機会を与えるよう図っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練や消火訓練の実施をしており夜間時の避難訓練も実施予定	消防署員立会いの訓練1回、独自の夜間想定訓練1回の毎年2回、訓練を実施している。施設の駐車場は、地域の避難場所となっている。近隣の特養とは、火災、水害の際の協力を得ることとしている。食材とガスコンロを備蓄している。	地域住民の災害時の協力に向けた組織づくりに併せて、地域住民の避難訓練への参加や防災協力隊などによる協力など、地域による支援に向けた働きかけを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという事をしっかり理解し、利用者様を尊重する様努めている。入浴や排せつの際もプライバシーには気を付けている。	個人情報、ケース記録と併せて、事務室で管理、保管している。広報紙への写真掲載は、予め家族の了承を得ている。来訪者名簿は備えず、職員が来訪者を日誌に記録している。入浴の際の異性介助、失禁の際の誘導など、利用者の心情を大切に対応している。居室のガラスドアには、ロールカーテンを設置し、プライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に決定事項ではなく本人の意志を尊重して対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や、気分に応じその都度対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には自分で衣類を用意してもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きなどできる事は行ってもらっている。	本部のカタログから、利用者の希望に沿って、2週間分の惣菜メニューを選択している。近所や家族からの差し入れの魚介類、野菜などを活用し、追加で手作りの惣菜やおやつを提供している。年末のニシメ、ひな祭りのちらし寿司、ロビーでの運動会の際の食事、誕生会、敬老会の特別メニューなどが主な行事食である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いてその都度対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後航空ケアを行い、声掛けや介助にて行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて失禁前に排泄できるよう対応している。	利用者ごとの排泄チェック表により、仕草や行動を見て、案内、誘導している。排泄が間に合わなかった方に対しては、それとなく誘導し、シャワーで対応している。自立者は4名で、布パンツ1名、リハビリパンツ3名、他はリハビリパンツとパットを併用している。リハビリパンツや尿取りパットを使用している利用者もトイレ誘導し、自立に向けた排泄支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や、軽い運動を促し、自力排便できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じ対応している。	小規模多機能ホームには特殊浴、ステンレス浴、木製の湯船があり、その利用者と調整しながら、主に木製の湯船を利用している。職員2名体制で、週2回、午前中に入浴としている。入浴剤や菖蒲湯を提供し、歌を流したり、世間話や昔話、長湯など、楽しいひと時としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内での行動は自由となっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が理解するまでには至っていない。今後勉強会などをし対応していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当を決め、対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や知人の協力のもと支援できるように努めている。	天候を見ながら日常的に外に出るように支援し、天気の良い日は、近くを散歩したり、庭での日向ぼっこのほか、花への水遣り、庭の草取り、桜や梅の鑑賞もしている。利用者4、5名で道の駅、釜石観音、海、花見、紅葉などの見学にドライブしている。買い物に数名で出かけることもある。正月、お盆の時期には2名が外泊している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力をみて本人管理してもらっている。希望がある方は預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に連絡できるように支援している。携帯電話を所有している方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物は置かないように努めている。ホール内は季節感のあるものを取り入れている。	温度は大型のエアコンで管理され、冬季の乾燥時期は加湿器やぬらしタオル等に対応している。天窓からの光と、南東の大方窓から自然光が入り、壁はグリーン色の色調で、保育園児や利用者による手作りの作品が展示されている。広々したロビーには、食事用テーブル、ソファが配置され、落ち着いた雰囲気の中で利用者はくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広くあり、自由に行動できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が自由に持ち込めるようになっている。	ベッド、クローゼット、手洗い、ナースコール、テレビ端子が設置され、衣装ケース、イス、テレビ、ラジオ、冷蔵庫、化粧品、家族写真、位牌など、それぞれの意向に沿ったものが持ち込まれ、エアコンで温度が管理された居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙をしたり、声掛けを行い安全に生活できるように支援している。		